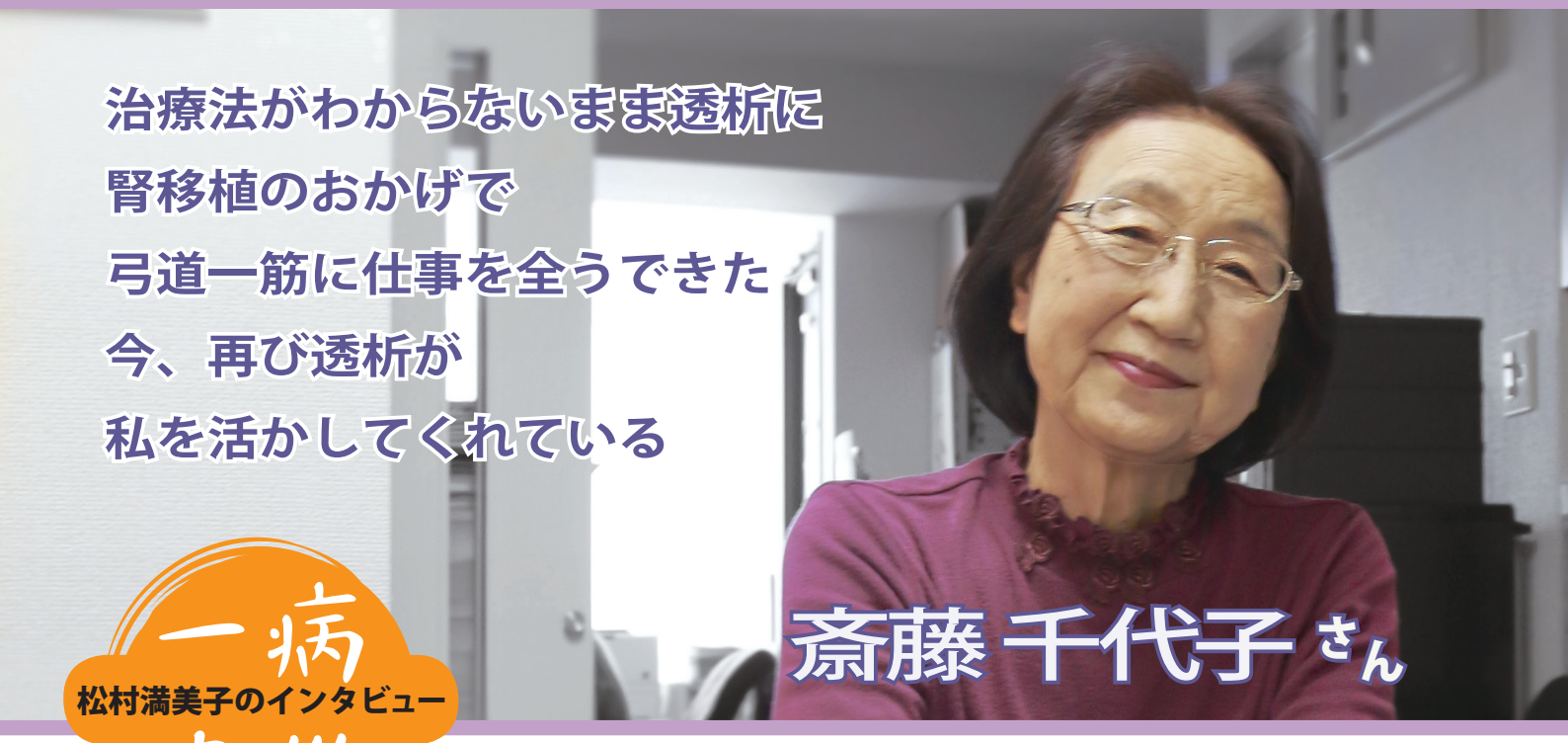

治療法がわからないまま透析に 腎移植のおかげで 弓道一筋に仕事を全うできた 今、再び透析が 私を活かしてくれている

一病息災

松村満美子のインタビュー

斎藤 千代子 さん

命もらったんだから、辞めるわけにはいかないんだ 働いて社会に恩返ししなくては

国体やインターハイで活躍している弓道の名門、石岡商業高校の教師で弓道部の顧問をしていた斎藤千代子さんは、20代の検診で尿タンパクを指摘されました。治療法はないといわれ病院から足が遠のいていましたが、腎臓病が悪化したためカリウム値が高くなり、心不全になって透析導入。その後父親からの提供で腎移植をし、定年後に再び透析に戻りました。透析や移植の素晴らしさ、支えてくれたドクターたちとの出会いを話してくれました。

インタビュー　松村 満美子

治療法がないといわれ死の直前まで我慢

松村　腎臓が悪いのが分かったのはいつですか？

斎藤　24才で教員になりたてのころ、検診で尿タンパクがでたんです。

それでどうしたのですか？

友達が働いていたクリニックに検査入院してやはりタンパクが出て。大きな病院で診てもらおうと水戸の病院にいったら、このくらいは何でもないといわれました。

それで安心したのですか？

友達が「大変な病気だ」というので、夏休みを利用して福島の県立医大に1ヶ月入院し腎生検をうけたんです。

結果はどうでしたか？

「慢性腎臓病（CKD）だから治らない」といわれ、すごくショックでした。

食事療法の指導は？

ありません。絶望的になっていたら、主人の友人が慈恵医大の青戸病院を紹介してくれ、また検査入院し、慢性糸球体腎炎と診断されました。

それで治療を始めたのですね。

いえ、どの病院でも治療法はないといわれ、自覚症状はないし、誰が見ても病気に見えないし、それで病院にいかなくなってしまったんです。

次はいつ気づいたんですか？

40歳を過ぎて、いつもだるくて、頭痛はするし、体中が痛くて眠れない、苦しくて目が覚めることがたびたびありました。そのころ新聞で食事療法でCKDを治すという記事を読んで、「えっ、治す方法があるじゃない」と、記事にでていた椎貝達夫先生に連絡してみたんです。

茨城県の取手協同病院ですね。

斎藤 千代子 さん

1947年3月生まれ。70才。元保健体育教員。24才のとき検診で尿タンパクを指摘され、複数の病院で慢性糸球体腎炎と診断される。1988年血液透析導入、翌年、父親から提供を受け腎移植。2006年再び血液透析開始。移植後は弓道部の顧問として、毎回のように生徒たちを全国大会に導く。20代で結婚、夫と二人暮らし。

椎貝先生が電話にでられ、「体が大変でしょうから、待たなくてもいいように、外来の診察時間以外で診てあげましょう」といってくれました。

まず患者さんのことを考えてくれるお医者さまなんですね。それでどうでした？

カリウムが9を超えていて、「いつ心臓発作が起きて死んでもおかしくない」といわれたんです。

高カリウム血症ですね。

はい、そのまま入院することになり、透析しか方法はないといわれました。

それまで透析を考えたことはなかったんですか？

ありません。ショックで親に知らせることができないほどでしたが、入院4日目に両親が来たときに、主人が突然に「おじいさんの腎臓、もらえるかな」といったんです。そしたら父が、「わかった、両方やるよ」って…

両方もらったら死んじゃいますよね（笑）。でもそれで移植の話が進んだのですね。

当時は透析を導入してからでないと移植はできなかったので、職場から近くて夜間透析をしてくれる土浦協同病院で透析を始めました。

透析と移植のおかげで仕事を続けられた

透析を始めてどうでした？

元気がでて、頭ははっきりするし、こんなに楽になるとは、ありがたいと思いました。何をやってもいいといわれて、生徒たちとテニスができるようになりました。

仕事も続けられたんですね。

この時期は一番辛かったです。体がというよりも、仕事と透析の両立がこんなに大変とは思いませんでした。

学校の先生は時間が決まっているから比較的透析はやりやすいのではないですか？

会議や部活があって帰宅は5時、6時になるんです。透析は5時からなので先に帰ると、だんだん居づらくなって。みんなが「辞めたらいいだろう」と思っているのが分かって。生徒たちも「先生が部活を見てくれない」とほかの先生のところに談判にいったりして。

辞めようと思いました？

このときは移植が決まっていたので耐えられました。でもあのまま透析だったら辞めていたかもしれません。

移植はどちらで？

東京医科歯科大学付属病院で、サポート協会の理事でもある飯野靖彦先生に診ていただくことになりました。

移植後はどうでしたか？

移植腎は5年くらいしかもたないと聞き、もらった腎臓を大事にしなくてはと、人混みを避け、マスクをし、手洗いにうがいと、神経質なくらいの生活でしたが、それ以外は何を食べてもいい、何をやってもいい、本当に移植はありがたかったです。仕事も続けることができましたし。

仕事は順調だったのですね。

手術後の療養休暇中に教頭先生がうちに来られて、「弓道部を作るんだけど、顧問をやってくれるか」といわれました。というのは、私は前の学校で弓道部の顧問をしていたからなんですね。

石岡商業高校の弓道部はすごいのだそうですね。

教頭は弓道では範士八段というすごい先生で、「3年で全国大会にいかせる」といって、本当にそうなりました。次の年から私が監督を任され、最初は負け試合でしたが、その後は20年近く全国

大会にでられなかったのは2回ぐらいです。

それはすごい。試合で全国に出かけて行ってたんですね。

いつも「帰ってこられないかも」と必ず自分の机を整理して出かけましたが、会場で子供たちを引き連れていると、元気になってるんです。

子どもたちから元気をもらっているんですね。

そうなんです。それに私が倒れたら、この子たちも倒れてしまうという気持ちでやっていましたから、それが良かったのかもしれません。

もらった命は働いて恩返ししなくては

移植腎は何年もちました？

18年です。飯野先生からはもっと早く透析に戻るようにいわれましたが、父が生きている間はもちこたえようと頑張りました。でも心臓に負担がきて体調は最悪でした。

でも5年しかもたないといわれたのが、お父様はお喜びだったでしょう。お父様の体調は大丈夫だったのですか？

はい、一緒に椎貝先生の勉強会に通い、私より養生していましたから。父は平成16年にリンパ癌で亡くなり、私は平成18年に透析に戻りました。

それで透析は順調ですか？

はい、カリウムだけはちょっと怒られますけど…

週3回ですか？

そうです。透析に戻ったのは退職した年だったので、仕事に行くのと同じようにそれまで通り「行ってきまーす」と出かけて、もう10年になります。

他の日はどう過ごしてますか？

外部指導者として弓道を続けていましたが、今年で70歳、古希を機に一切、引こうかと思っているんです。

弓道は斎藤さんの元気の源みたいですから、引退しない方がいいのではないですか？

そうかもしれませんね。実は移植したときに、腎臓に負担をかけないように仕事を辞めようと思っていたんです。そしたら飯野先生から、「せっかくもらった命は、社会に貢献すべきです。働きなさい！」っていわれたんですよ。なるほど、命をもらったんだから、辞めるわけにはいかないんだ、働いて社会に恩返ししなくてはと思いました。

生徒と一緒に自らも弓を引く

とてもポジティブですね。

「元気になるから、大丈夫だから」といってくださって、頑張れるんだという気持ちになれました。それで弓道とも出会えたと思うんです。

斎藤さんは本当に良いお医者さまに恵まれましたね。

椎貝先生がいなければ私は死んでいたかもしれません。そして飯野先生に背中を押していただき、有意義な人生を生きることができました。

お二人とも命の恩人ですね。

先生方のおかげで曲がりなりにも定年まで仕事を続けることができ、だからこそ子どもたちに教え、子どもたちから教えられ、貴重な体験をすることができました。

インタビューを終えて・・・・・・・・

仕事を辞めようと思うたび、同じ教師であるご主人に引き止められ、医師に引き止められ、定年まで続けることができたそうです。「仕事は弓道」と、病気を抱えながら弓道一筋にやり遂げたガッツに脱帽しました。「移植後は薬で生かされ、透析にもどった今は機械で生かされている、だから今は透析は仕事だと思って、明るく楽しく受けている」そうで、透析をしながら運動ができる設備が自分の病院にもできたらよいのにと希望を述べられるなど、ガッツ一杯、引退はまだまだ先のようですね。